

「贖い、罪の赦しを得ています」

コロサイ 1 : 14

堀田修一 25・3・2

I 「この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです」：14。13節の「御子のご支配の中に移されて」、御子のうちで何を得ているか説明されている。

- ①「贖い」→これは「いけにえ」（ヘブル9：6～15）や「なだめの供え物」（ローマ3：25）とともに、旧約のモーセ時代の制度に由来する聖書の中心的な恵み。この意味は、単なる救出とか解放ではなく、「身代金を払って捕らわれの状態にある者を救出すること」。次の主のことは、この点を明確に教えている。「人の子が来たのが…多くの人のための、贖いの代価とし、自分のいのちを与えるためである」（マタ20：28）。主による贖いを心から感謝します。
- ②「罪の赦し（原語：釈放、放免、責任・借金・罰等の免除、赦免、赦し）」→「罪の赦し」は、私たちの過去、現在、将来のいっさいの罪に適用され、すべての刑罰と罪への責めの精算を意味している。「私たちのすべての罪（恵みとまことに満ちた神の支配を拒否し、自分が神の座にのし上る高慢、ある人への支配、心の憎しみ、恨み、ねたみ、悪口、陰口、不正等）を赦し、いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架（私たちの身代わりに主が私たちの罪の責め、刑罰をすべて受けられた十字架、私たちの罪への責めの精算を終えられた十字架）に釘づけにされました」コロサイ2：13，14。心から神に感謝します。

II 主の十字架による罪の赦しの驚くべき恵みへの応答。主の十字架による罪の赦しがあれば全人類、私たちは、とっくに滅びている。今は、神の憐みで人々が主を信じて救われる（赦しと永遠のいのち）時間、チャンスが延ばされ与えられている。「主は、ある人たちが（主の再臨による救いの完成と正しいさばきが）遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改め（罪を認め神に立ち返る）に進むことを望んでおられるのです」IIペテロ3：9。

1. 神に心から感謝し真実な礼拝をささげる。神の赦しの恵みがあると神と幸いな交わりが生まれる。
2. 私たちの罪のために十字架の道から逃げないで歩み、十字架で壮絶な苦しみを受け、死なれた主のことを深く思う。「イエスは、ご自分の前に置かれた喜び（神に従う喜びと私たちの贖いの成就）のゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい（原語：総計する、熟考する、考える、思い浮かべる）」ヘブル12：2，3。今、ある人との辛い人間関係がある人は、反抗を忍ばれた主に頼りましょう。
3. 主の大きな愛と赦しを受け続け互いに愛し合い赦し合う。「わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」ヨハ13：34。「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです」エペ

ソ4：32。自分を傷つけた人を赦すことは簡単ではない。神に、人を赦すことは自分の力ではできませんと正直に祈り、人を赦すことができるように祈りたい。赦さないまましていると、自分の心の中で、憎しみ、恨みが支配し、赦さない心で自分を傷つけることになる。全能の神を見上げ希望を持ちたい。神は、全能の力、愛で赦す心を下さる。※証し：主により人を赦す人生の恵み。もし主の赦しを知らなかったら？

4. まず自分が赦し、愛、恵みを味わい続ける。受けた素晴らしいみわざを人々に伝える。I ペテロ2：9。私は、今日まで、神の恵み、赦し、愛を受け続けていますので、神の恵み、赦し、永遠のいのち、救いを一人でも多くの人に伝えたいです！

Ⅲ 個人的な罪を赦すことと、明確な法的罪への対処の違い

1. 個人的に、赦し合う大切さを教えるみことば→主の祈り「私たちの負い目（罪）をお赦してください。私たちも、私たちに負い目（罪）のある人たちを赦します」マタイ6：12。

2. 神が与えられた全世界の国々の領域を犯す罪、法律違反をする人への聖書的な対処。

主は言われた。「悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい」マタイ5：39。このみことばの実際的な適用は正しい判断力を必要とする。

①主の模範から学びたい→「大祭司はイエスに、弟子たちのことや教えについて尋問した。イエスは彼に答えられた。『わたしは世に対して公然と話しました。いつでも、ユダヤ人がみな集まる会堂や宮で教えました。何も隠れて話してはいません。なぜ、わたしに尋ねるのですか。わたしが人々に話したかは、それを聞いた人たちに尋ねなさい。その人たちなら、わたしが話したことを知っています。』」イエスがこう言われたとき、そばに立っていた下役の一人が、『大祭司にそのような答えをするのか』と言って、平手でイエスを打った。イエスは彼に答えられた。「わたしの言ったことが悪いなら、悪いという証拠を示しなさい。正しいのなら、なぜ、わたしを打つのですか」（ヨハネ18：19-23）と言われた。主は、いつも相手を愛しながら、相手にこびへつらったり、支配されたりなさない。相手への憎しみ、恨み、復讐心にご自分の心が支配される事もない。相手を赦し、愛しながら、且つ、正しく言うべきことは、落ち着いて言われる。「あなたがたの言うことばは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』としなさい」（マタイ5：37）と言われた。主は、「あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい」と言われたが、大祭司の下役が主を平手で打った時、片方の頬を出さず、愛を持って正しい抗議をされた。

②パウロの模範からも学びたい。使徒16：37で、次の事が語られている。パウロとシラスは、ピリピの牢獄に入れられていた。彼らの足には、しっかりと足かせがはめられていた。その翌朝、地震と、それに続く夜の事件の後に、長官らは自分たちの落ち度のあったことを悟り、パウロとシラスの釈放の命令を出した。ところがその時、パウロは愛と冷静さをもって言うべきことを刑吏たちに言った。「長官たちは、ローマ市民である私たちを、有罪判決を受けていないのに、今ひそかに私たちを去らせるのですか。それはいけない。彼ら自身が来て、私たちを外に出すべきです」使徒16：37。赦しと言うべき事。

③ 上記の主の模範とパウロの模範と主の教え「あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい」「自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」（マタイ5：39, 44）とどのように調和するのだろうか。次のような理解で調和できる。上記で見た二つの模範は、どちらも主やパウロが、自らの個人的な権利を主張しているものではない。主は律法の違反を指摘したのである。この抗議は律法を支持するためになされた。主は、彼らに対して「あなたがたは、

このように私を打つことによって、律法を破っているではないか」と語られた。主は、腹を立てたりされず、これを個人的な侮辱として受け取られなかった。主は、怒ったり、復讐しようとはされなかった。パウロも法律の権威と尊厳を認め守るように語った。キリスト者は自分個人への侮辱を主に赦された愛で祈りつつ赦す。しかし、法律の尊厳が犯されている時に抗議をする。神が定められた境界線を犯す国の戦争にも。神を信じる者として、神が無政府状態、無秩序にならないために、神の支配の中で与えられた法律を守る。間違った法律に対して、正しい法律に変える政党に投票する。キリスト者は、個人的な恨みではなく、公的な罪を犯した人の人格を主により赦しながらも、その人の不正や不倫に対して、その人が反省し罪を繰り返さないために、法に適う対応をする。神の公義が曲げられている場合、正しく抗議をする。「(愛は)不正を喜ばず、真理(誠実、忠実)を喜びます」Iコリント13:6。指導者が間違った命令をする時→「人に従うより、神に従うべきです」使徒5:29。罪深い自分が主に赦された恵みを感謝し、人を赦すと同時に神の公義を守れますように。